

[成果情報名]赤紫色夏秋小ギク有望系統「長崎 SRC2」の開花特性

[要約]赤紫色夏秋小ギク有望系統「長崎 SRC2」は、電照により8月上旬に開花抑制でき、「長崎 SWC1」と同時期出荷が可能である。草姿が良く無効側枝の発生が少ないため、出荷調整がしやすく省力的である。

[キーワード]夏秋小ギク、赤紫色、電照栽培、長崎 SWC1

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]花き

[分類]普及

[作成年度]2019年度

[背景・ねらい]

本県では、露地で栽培でき、低コストに導入が可能な品目として、小ギクの作付け推進を図っているところである。しかし、最需要期である8月盆出荷作型では、近年の異常高温により早期発蕾や開花遅延が発生し、計画的に出荷できないことが問題となっている。そのため、安定生産が可能な夏秋小ギク品種の育成が求められており、これまでに重イオンビーム照射により、電照による開花調節が可能な白色品種「長崎 SWC1」を育成した(平成30年度成果情報)。

小ギクは、需要期に赤・白・黄の3色揃った出荷が求められる。そこで今回、「長崎 SWC1」と同時期に出荷できる赤系品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

「長崎 SRC2」は、本センターで白色夏秋小ギク品種「はじめ」の自然交配により得られた実生から2014年度に選抜された系統であり、以下の特性を有する。

1. 花色はやや薄い赤紫(RHSカラーチャートRED-PURPLE 70-A)である(写真1)。
2. 4月中旬に定植し、定植～6月中旬まで電照による5時間の暗期中断処理を行うと、開花は8月上旬に抑制できる。消灯日からの到花日数は、55日以内であり、「長崎 SWC1」と同等である(図1、2)。
3. 8月開花作型における切り花品質は、県切り花標準出荷規格の最上位規格である切り花長80cmは十分確保でき、80cm調整重は、おおむね50gを確保できる(表1、2)。
4. フラワーフォーメーションは1であり、葉が立葉で小葉であるため、出荷調整しやすい形状である(表1、2、写真1)。
5. 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝(無効側枝)の発生が少なく、1本未満である(表1、2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本年度の「長崎 SRC2」の季咲きは7月上旬であった。
2. 無効側枝は、出荷調整時に除去する必要があるため、無効側枝が少ないことは作業の省力化につながる。
3. 今後品種登録出願を行う。

【各試験圃場の消灯日】

| 試験年度 | 2017 | 2018 | 2019 | 2019 | | |
|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 栽培圃場 | | 農技セ | | 県北A | 県北B | 県央A |
| 消灯日 | 6月13日 | 6月11日 | 6月13日 | 6月15日 | 6月9日 | 6月10日 |

[具体的データ]

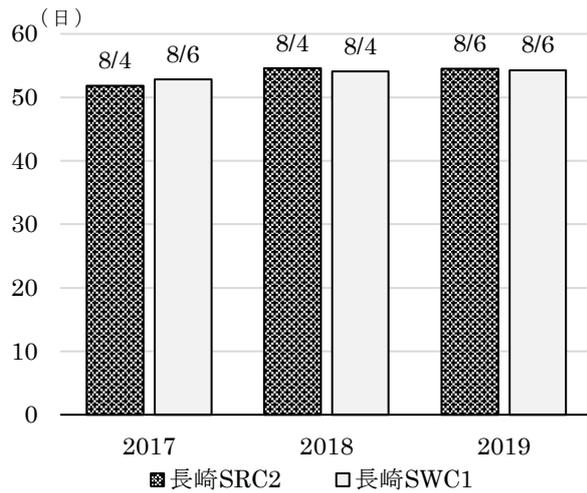


図1 「長崎 SRC2」の到花日数^zおよび平均収穫日（農技セ）

^z 消灯日から平均収穫日までの日数

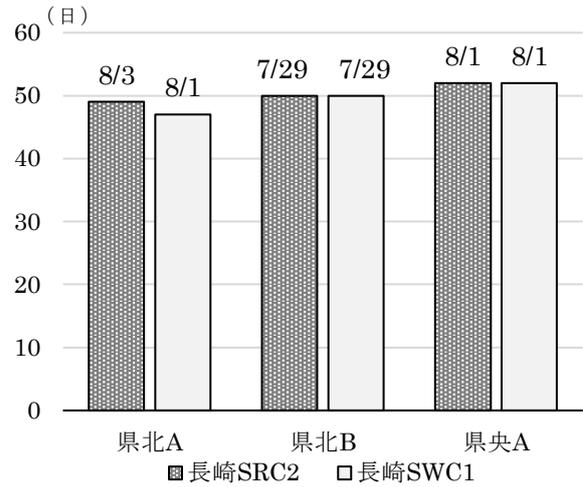


図2 「長崎 SRC2」の到花日数^zおよび平均収穫日（現地・2019年度）

^z 消灯日から50%収穫日までの日数

表1 「長崎 SRC2」の切り花品質（農技セ）

| 試験年度 | 品種・系統名 | 切り花長 (cm) | 無効 ^z 枝数 (本) | 80cm ^y 調整重 (g) | FF ^x |
|------|--------|-----------|------------------------|---------------------------|-----------------|
| 2017 | 長崎SRC2 | 113.1 | 0.2 | 50.0 | 1 |
| | 長崎SWC1 | 112.0 | 0.1 | 52.3 | 1 |
| 2018 | 長崎SRC2 | 123.3 | 0.8 | 57.4 | 1 |
| | 長崎SWC1 | 119.1 | 0.8 | 54.8 | 1 |
| 2019 | 長崎SRC2 | 98.1 | 0.5 | 56.0 | 1 |
| | 長崎SWC1 | 103.9 | 1.9 | 58.0 | 1 |

^z 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝
^y 切り花を長さ80cmに調整した後、有効側枝以外と下葉20cmを除去して測定

^x FF：フラワーフォーメーション（図3参照）

表2 「長崎 SRC2」の切り花品質（現地）

| 圃場場所 | 品種・系統名 | 切り花長 (cm) | 無効 ^z 枝数 (本) | 80cm ^y 調整重 (g) | FF ^x |
|------|--------|-----------|------------------------|---------------------------|-----------------|
| 県北A | 長崎SRC2 | 113.2 | 0.3 | 51.9 | 1 |
| | 長崎SWC1 | 114.7 | 0.1 | 49.5 | 1 |
| 県央A | 長崎SRC2 | 90.0 | 0.0 | 54.8 | 1 |
| | 長崎SWC1 | 87.9 | 0.0 | 46.6 | 1 |

^z 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝
^y 切り花を長さ80cmに調整した後、有効側枝以外と下葉20cmを除去して測定

^x FF：フラワーフォーメーション（図3参照）

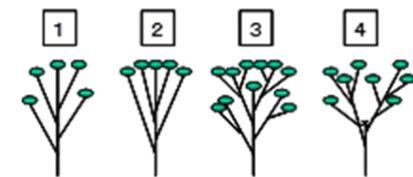


図3 小ギクのフラワーフォーメーション



写真1 「長崎 SRC2」の草姿

[その他]

研究課題名：戦略的イノベーション創造プログラム（次世代農林水産業創造プログラム）

ゲノム育種技術等を用いた農水産物の画期的育種改良

予算区分：国庫 研究期間：2014～2018年度 研究担当者：久村麻子、竹邊丞市